

シエラレオネ国農村部において、小学校から地域へと育む モリンガを活用した持続可能な栄養改善のしくみ作り



モリンガ給食を食べる児童

シエラレオネ・プロジェクト担当 藤井 千江美

プロジェクトの背景

シエラレオネの国の概要



- ・人口、面積ともに、北海道の約0.8倍
- ・言葉：英語、クリオ語、他約60部族語
- ・宗教：イスラム教(60%)、キリスト教(約30%)など
- ・平均寿命：60歳（ユニセフ, 2023）
- ・2014年～2015年：エボラウイルス病の感染が拡大し、約14,000人が感染し、約4,000人が死亡。

本プロジェクトが立ち上がった背景

- 「世界で一番いのちが短い国」と言われたシエラレオネ。
約9人に1人の子どもが5歳までに亡くなる。
(出所:2023年ユニセフ世界子供白書)
- 貧困、そして乾季の半年間はほとんど雨が降らない環境のため、多様な食物の摂取困難。
➡ 特に微量栄養素が不足し、感染症に対する抵抗力の低下
- 診療所へのアクセス困難、貧困、診療所の不十分な設備・器具、医療従事者の不足から十分な治療を受けることが困難。
➡ 病気に罹らない健康な身体作りが大切
- 感染症(エボラウイルス病、新型コロナ感染症など)、紛争が勃発すると国外からの支援は停滞。
➡ 自立して継続できるしくみ作りが大切

- 2018年から国連世界食糧計画(WFP)が、栄養改善と就学率向上を目的に、**学校給食制度**を導入。

＜内容＞ ＊ 米、豆類、ベジタブル油、塩を配給。

＊ 地域住民が、それ以外の食材と料理する女性を提供。

➡ **地域住民も、野菜など販売目的で栽培しているため、提供が難しい現状。**



WFPから支給されたクスクスを見童の容器に分配、
野菜など入っていない状況@ブルキナファソの村の小学校

地域に自生する栄養価の高いモリンガの活用

ビタミンA、ビタミンB1、ビタミンC、ビタミンE、カルシウム、鉄、カリウム、たんぱく質などの栄養成分が多く含まれており、特にビタミンやミネラルの微量栄養素が豊富。



モリンガ・スクールガーデンで草引きする児童



モリンガ料理

活動の成果と課題

プロジェクトの概要

1) 活動資金

- ①味の素ファンデーション助成金（2022年4月～3年間、年間300万円）
- ②風に立つライオン基金（2022年4月～3年間、年間約100万円）

2) 対象小学校

12か所の小学校

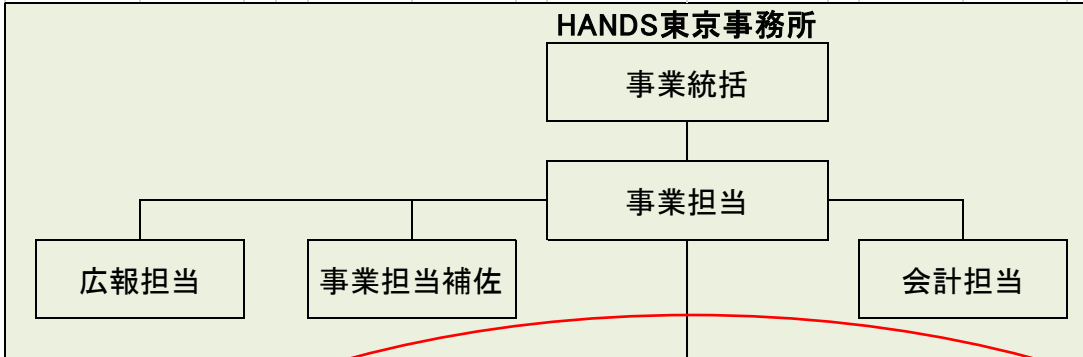
3) 対象者

- * 小学校の教員、児童、学校運営委員会（2019年4月～）
- * 各小学校エリアに存在する母親支援グループ（2022年4月～）

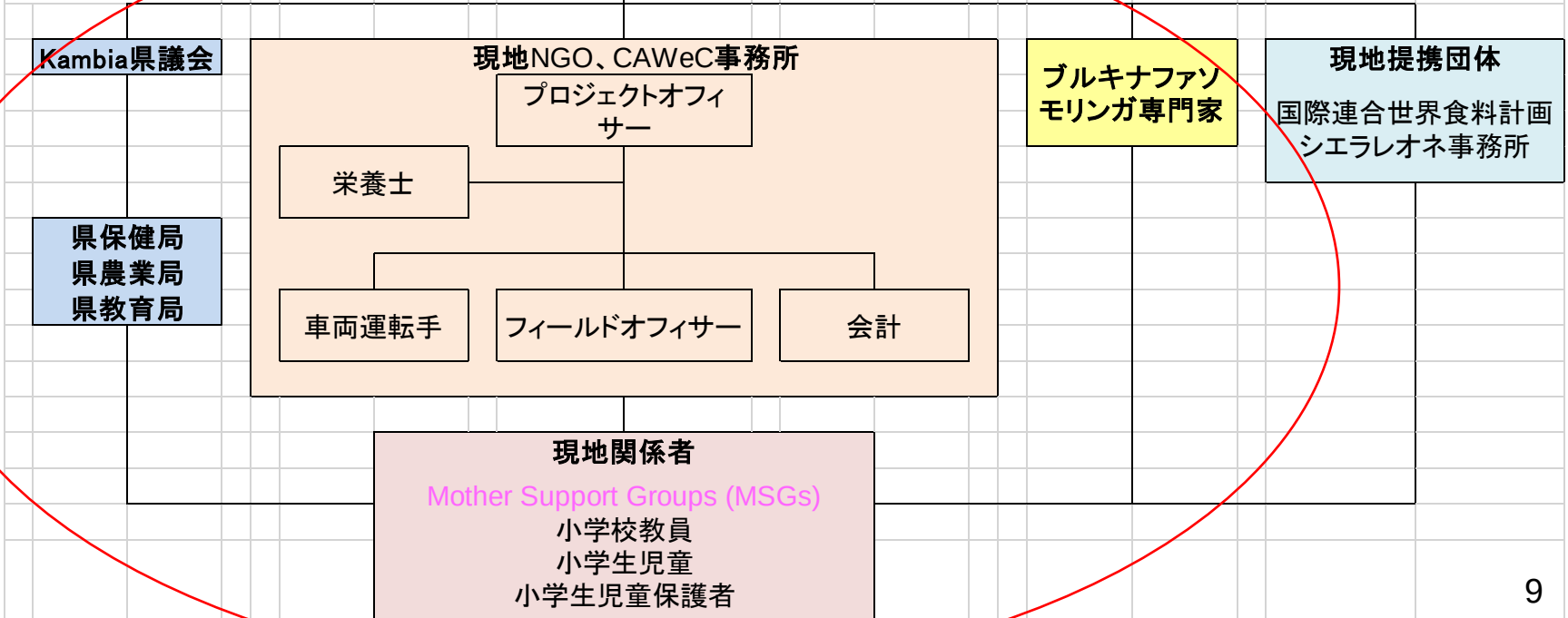
Mother Support Group (以下、MSG)とは、自発的に地域の母子保健活動をサポートしたいという女性（母親、伝統的産婆、10代女性など）と男性2名の15～20名で構成されるグループ。

事業実施体制表

<日本>



<シエラレオネ>



プロジェクトの特徴

1)ブルキナファソからのモリンガ専門家に、外部講師として委託。

- * 類似な環境にある周辺諸国との連携と協力

2)外部講師から、地元NGO→担当教師→母親支援グループ→
地域女性(母親を含む)へと、全てカスケード式にトレーニングを実施。

- * 学んだことを教えることで、知識の定着へ

- * モチベーションの向上へ

モリンガ・スクールガーデンの運営・管理

- * 2024年4月～「マイ・クラス・モリンガ・スクールガーデン」導入@7校
- * 5校は継続。

2023年8月～
各児童宅に1本の
「マイ・モリンガ」
のしくみを導入

学校給食にモリンガ葉・粉末を、現在週2回提供。

→ 最低週3回以上に増やす。

自宅でもモリンガ料理
提供へ

2024年3月～母親支援グループの女性たちから地域女性・母親へ

- * モリンガ料理講習会
- * モリンガ葉粉末製造・貯蔵研修実施
- * 食と栄養の話やモリンガの育て方、モリンガの栄養など

＜Output 1＞モリンガ・スクールガーデンが運営管理される。

＜2024年度の新たな取り組み＞

1) 2024年4月から、頑張っている7か所の小学校対象に、「マイ・クラス・モリンガ・スクールガーデン」のしくみ導入。

- * 既存のモリンガ・スクールガーデンを3～6年生の4学年に区画。
- * 各学年でクラス担当教員、児童、そして母親支援グループ2名で運営管理。

→ チームワークの形成と責任の所在を明確化。

- * 導入する上で、自助努力の促しと成果による出来高制での支払い。
 - * 自分たちで、すでに研修で学んだ知識や経験の再確認と再習得。
 - * モチベーションの向上。
 - * 自分たちで実施できるように、更に必要な情報は具体的に提示。



アマディヤ・ロバーツ小学校



ロマカ小学校



2) 優秀校へのスタディ・ツアーを年2回、新たに実施する。



<スタディツアーでのディスカッションから分かったこと>

①学校内での教員間のチームワーク体制

- * 研修で学んだことを、担当教師から他教師にすぐにフィードバックし、協力を要請。校長のサポート体制。

②児童の有効的な参加体制

- * 授業(農業実地)の一環で草引き。
- * 週末、各児童に2本のフェンスの木持参のアナウンス。

③地域のサポート体制

- * 家畜の侵入や地域住民のサポート必要時は酋長に相談し、酋長から住民へアナウンス。

モリンガ・スクールガーデンの運営・管理

- * 2024年4月～「マイ・クラス・モリンガ・スクールガーデン」導入@7校
- * 5校は継続。

2023年8月～
各児童宅に1本の
「マイ・モリンガ」
のしくみを導入

学校給食にモリンガ葉・粉末を、現在週2回提供。

→ 最低週3回以上に増やす。

自宅でもモリンガ料理
提供へ

2024年3月～母親支援グループの女性たちから地域女性・母親へ

- * モリンガ料理講習会
- * モリンガ葉粉末製造・貯蔵研修実施
- * 食と栄養の話やモリンガの育て方、モリンガの栄養など

＜Output 2＞ 各校の児童保護者が、「マイ・モリンガ葉やマイ・モリンガ葉粉末」を取り入れた料理を、自宅で提供できるようになる。

＜現状＞

- 2023年8月から、各児童が1本のモリンガを自宅でも育てる「マイ・モリンガ」の活動を開始。
2024年3月時点で、成長速度に差はあるが、各児童が水遣りや家畜侵入防止フェンスを工夫し、順調に育っている。

＜2024年度の取り組み＞

- 2名の栄養士から、MSGsに栄養の研修実施。@6月
- 「マイ・モリンガ」の活動の継続。
 どのように学校給食にマイ・モリンガを提供していくか、検討必要。
- ベスト・モリンガスクールガーデンの小学校で、地域女性対象に、モリンガ料理コンテスト開催@2024年10月と2025年3月。



モリンガ・スクールガーデンの運営・管理

- * 2024年4月～「マイ・クラス・モリンガ
スクールガーデン」導入@7校
- * 5校は継続。

2023年8月～
各児童宅に1本の
「マイ・モリンガ」
のしくみを導入

学校給食にモリンガ葉・粉末を、現在週2回提供。
→ 最低週3回以上に増やす。

自宅でもモリンガ料理
提供へ

2024年3月～母親支援グループの女性たちから地域女性・母親へ

- * モリンガ料理講習会
- * モリンガ葉粉末製造・貯蔵研修実施
- * 食と栄養の話やモリンガの育て方、モリンガの栄養など

<Output 3> モリンガ給食が、最低週2回提供される。

<現状>

- 12か所の小学校で、週2回曜日を決めて提供。
- 2024年3月、母親支援グループが地域女性対象にモリンガ料理講習会を実施。
 - ➡ モリンガ料理の調理方法はすでに習得。
- モリンガ粉末製造・貯蔵は、「味、色、香り、鮮度」の4項目でチェック。
 - ➡ 12か所、ほぼ全て合格点。

<2024年度の取り組み>

- 「マイ・モリンガ」と「マイ・クラス・モリンガ・スクールガーデン」から、モリンガ葉の収穫量が期待できる。
 - ➡ モリンガ給食を、週2日から週5日へ増やしていく。
- 母親支援グループから地域女性へと、モリンガ料理やモリンガ粉末製造・貯蔵研修を実施。@10月
- MSGs対象に、モリンガ葉粉末製造と給食提供回数の記録研修。
@6月





<Output 5>

モリンガに関して実施してきた各研修をマニュアルにまとめ、モニタリング指導に活用される。

<現状>

2023年4月から取り組み、2024年3月に草稿を1頁ずつ関係者で確認。

<2024年度の取り組み>

加筆修正を行い、2024年9月には完成させ、10月に研修を実施予定。

My moringa nutritious garden



Written and edited by
Hepaoum Mohamed OUEDRAOGO
Expert-Moringa



<Output 6>

本事業に対する県関係者の連携が強化され、WFPの学校給食と共に、本事業がカンビア県で展開されるベースが作られる。➡ 年2回実施

<現状>

県保健局の栄養士、県教育省、県農業省、県議会の役人、校長先生・担当教師、母親支援グループの女性リーダーが出席。

<2024年度の取り組み>

県省庁代表者が積極的にポジティブな意見や提案を発言するようになってきたので、具体的にどのようにカンビア県で展開していけるかを話し合う。



プロジェクトの目的と進め方

第1目標

- 2019年4月～2022年3月: 小学校でモリンガ・スクールガーデンを作り、収穫できた野菜とモリンガの葉を給食に加え、児童たちの栄養を強化する「しくみ」作り

第2目標

- 2022年4月～2025年3月: 母親を含む地域女性を対象に、モリンガ野菜農園を拡大し、自宅料理の栄養も向上し、児童の栄養をより強化する「しくみ」作り

第3目標

- 2025年4月～: 収穫できた余剰分の野菜やモリンガ葉の加工品を販売し、女性たちの現金収入が増え、自宅料理やヘルスケアへのアクセスが向上する「しくみ」作り



アフリカ農村部における持続可能な地域住民の健康増進に向けた「しくみ」作り